



小田小だより

平成28年12月号

〒236-0052 横浜市金沢区富岡西1丁目69番1号 Tel 045(775)3011

<http://www-local.edu.city.yokohama.jp/sch/es/koda/>

横浜市立小田小学校

ある新聞が伝えた変わった宿題 ～「よいお年を・・・」との願いを込めて～

学校長 木村 昭雄



12月になります。12月は「師走」ともいいます。「師走」の語源については諸説あるようですが、平安末期の「色葉字類抄(いろはじるいしょう)」によれば、師匠の僧侶がお経をあげるために東西を馳せる月と解釈することから「師馳す(しはす)」、転じて「師走」になったとのこと。何にしても一年の締めくくりということで昔から慌ただしい月であったようです。

年末年始を各ご家庭ではどのようにお過ごしになるのでしょうか？

大晦日には年越しそばを食べて、元旦の朝にはお雑煮を食べておせち料理をつまみながら家族団らんの時を過ごすというのが私のイメージですが、いかがでしょう。

さて、家族とのあたたかいかわりがあることの幸せについて感じていただければという思いを込めて、ある小学校の1年生の変わった宿題のお話を・・・。

A子は家に帰ると、「お母さん、今日の宿題は抱っこなの」と話した。「それは変わった宿題ね」と言いながら母親は娘を抱っこした。

その後、A子はお父さん、お爺ちゃん、ひいお婆ちゃん、それに二人の姉からも抱っこしてもらった。全部で6人からの抱っこである。

次の日、学級ではA子が抱っこの宿題のチャンピオンになった。先生は「すごいね。Aちゃんに拍手!」という全児童が手をたたいた。

やがて、女の先生は「抱っこの宿題を忘れた人は前に出てきてください」という。すると、数人が前に出た。そして、一人一人を先生はやさしく抱っこしていったそうだ。先生は宿題をしてこなかった子を、叱るでもなければとがめるでもない。親の代わりに抱っこした姿に温かさを感じてならない。

「なぜこのような宿題を??」と誰しもが思うことでしょう。その理由はこうでした。

「先生がね、小学生のころにお母さんが亡くなって、抱っこしてもらいたくても叶わなかったから、君たちはいっぱい抱っこしてもらいなさいって言った」

先生が果たせなかったからこそ、親の大切さや、抱っこしてもらえる幸せをちゃんと知ってもらいたいと考え、このような宿題を出されたんですね・・・。

この話は、九州のある新聞で紹介され、「抱っこの宿題」として人づてに広まっているといいます。

教育評論家の松本肇氏によれば、抱っこやハグは「親子の信頼関係を確認し合うために有効」で、多くの心理学者が推奨する行為だといいます。ただ、学校生活の中で「宿題」として出すにあたっては、「十分な配慮が必要」とも指摘しています。

折しも今年の6月1日(水)放送のNHK「ためしてガッテン!」は、癒やしホルモン(オキシトシン)についてでした。スタジオに登場した日本医科大学名誉教授の佐久間康夫氏によれば、ハグやマッサージ、タッチケアによって触覚が脳に伝わり脳の視床下部から「オキシトシン」という癒やしホルモンが分泌され、日常のストレスや認知症、体の痛みまでを軽減してくれるとのこと。東日本大震災の際には、タッチケアによって多くの人の不安やストレスを解消したということ。「オキシトシン」は、人間だけではなくチンパンジーなどの動物にもハグなどの触れる効果がみられるという。仲間と寄り添い「オキシトシン」を出して精神を安定させたグループだけが進化の過程で生き残ってきたと考えられていると解説していました。

難しいことはさて置き、家族との時間が増える年末年始だからこそ、親の大切さ、家族の大切さ、抱っこやハグしてもらえる幸せを子どもたち一人一人に感じてほしいと願っています。

どうかよいお年をお迎えください。